NRU-east
National Railway Workers' Union

ダイジェスト版　2026年
No. 374　6月10日

国鉄労働組合東日本本部
港区新橋５-15-５　交通ビル7F
発行責任者　伊藤　隆夫
編集責任者　武田　幸喜

声かけて
仲間とTUNAG
拡大へ

安全・安定輸送の確保には グループ・関連を含めた体制確立を！

5/31 電気交流会より

一昨年以降、電気関係の事故･事象が相次いでいます。原因は、測定範囲の誤り(架線垂下)、取り扱い誤り（山手・京浜東北停電)、張替工事誤り・モニタリング不備（宇都宮線）と様々ですが、検査基準、取扱い等がきちんと分かっていれば起き得なかったと思われます。

この間の電気関係の主な事故・事象

2024年　1月２３日：新幹線上野～大宮間架線垂下
2025年　9月　2日：東北新幹線新石橋き電区分所感電災害
　　１１月２２日：奥羽本線中川変電所感電災害
2026年　1月１６日：山手・京浜東北線停電事故
　　1月３０日：常磐線上野駅架線切断
　　2月　8日：宇都宮線架線切断
　　4月１５日：白新線新潟（夕）構内軌陸車と貨物列車衝突

電気交流会の主な報告から

- Ａ社に出向しているが、架線の測定で、重錘の測定と同じように測る場所が違っていることがあった。また同じような事象が起きるのではないかと感じる。
- 出向先会社では２件の感電事故があった。人が足りず、教育も十分にされていない。
- グループ会社の下請けの会社にいるが、線閉区間で他社との競合の工事があり、確認がきちんとされないことがある。
- 新潟の事故と同じ会社にいるが、２日後にきちんとチェックしてやれば良いと業務が再開された。パソコンでしかチェックしておらず、紙でのチェックが必要でないかと感じている。ＡＩでチェックしていくとも言われているが、不安になっている。
- 変革２０２７で、皆が出来るようにしていくと言われていたが、その中で事故が続いている。検証が必要ではないか。
- 東急で列車衝突事故があり、一斉点検が行われた。結果、４か所で同じ状況があり改修している。
- 特殊信号発光器が点いているのに樹木で見えず、列車が走ってしまった事象があった。
- 直轄だけでは伐採等、間に合わない。保線からは架線に掛かっているからできないと言われなおさら追い付かない状況となっている。

チェックできる体制が必要

安全・安定輸送の確立にはグループ全体の要員の確保・教育体制の充実が必要だ！